



「コロナとクマとの戦い」～正しく怖がって正しい対策を～



- 4月に16名の新入生を迎えて令和2年度がスタートしましたが、間もなく新型コロナウイルス感染症予防のため臨時休校となり、子どもたちは校地内の満開の桜を見ることができませんでした。それならば、子どもたちの笑顔の花をたくさん咲かせようと、全校でマスクの着用や手指消毒、こまめな教室の換気など、新型コロナウイルス予防作戦を展開しました。しかし、次に子どもたちの活動に待ったをかけたのが、クマの登場でした。7月に入ってからは、毎日のように目撃情報が寄せられるようになり、学校近くに「熊出没注意」の看板が立ちました。自力通学生の登下校を保護者のみなさんの送迎に切り替えたり、外に出掛けるときは複数で鈴やラジオなどで音を出したりして慎重に対応する日々が続いています。先週の金曜日、鹿角市役所農林課の方を講師に招いて、初めて全校で「クマの勉強会」を実施しました。子どもたちの命を守ることを優先し、宿泊学習や修学旅行、校外学習や水泳教室など、たくさんの活動を延期や中止せざるを得なかったことを申し訳なく思っています。
- そんな中、小学部生は近くの老人ホーム「和光園」のおじいさんやおばあさんに七夕飾りと一緒に、地域に笑顔を届けました。中学部生は花輪さくら園の子どもたちに手作りの遊具と一緒に、地域に優しさを届けました。高等部生はリンゴレンジャー公演を通して、地域を明るくしました。その様子はテレビでも放送され、地域のヒーローとして活躍中です。
- 私が一番印象に残っているのは運動会です。新型コロナウイルスが心配される中、「本当にやっていいのか」と、不安の中で本番を迎えましたが、保護者のみなさんの協力と、かつの校アップルサポーターとして参加した世界マラソン金メダリスト浅利純子さんの応援のおかげで、かつの校が一つになれました。「グラウンド全体が優しい眼差しで見守る大家族のようでした」という保護者の方の声に、開催してよかったと思っています。閉会式で浅利純子さんは、子どもたちの頑張りを称えるとともに、「私がこれまで出場したマラソン大会は全て晴れでした」と感想を述べていました。これからかつの校の行事には、浅利純子さんに来ていただこうと密かに思いました。
- 23日から子どもたちは夏休みです。まだまだコロナウイルスとクマとの戦いは続きそうですが、**正しく怖がって、正しく予防をすることが最善の方法**だと考えています。



かつの校 副校長 加賀谷 勝